

時評

植付時の多忙

植付小作人は、何所かに忙がしい。一家中目が回る様だ。手足を一度に動かして、田舎に付かない程だ。富農だ、勤作だ、田舎だ、植付だ、といふ様に、先々仕事が出来て来る。植付は何のことなしに、仕事に追付られるままに働いて居る。

だが、いくら忙がしく働いて、その收穫物が植付小作人のものになるのならよいが秋の收穫の大半は小作料として地主に奪れて暮みのだ。植付はこんな目も望はしやらないのだ。植付はそのことを考へると頭にさむつて働くのが苦しいやになつて暮む。多くの植付小作人仲間の人達はそうしたことを考へる暇もなく、争ひかけた耕作に追はれて働いてゐる。

ガマンがして居られようか。早くなんとかしなければならぬ。小作料とかぬかして、

植付小作人が目を廻はす様に忙がしい思ひをして、作つた物を握りとりする奴をどうかしなければ駄目だ。耕作に追付られて働いて居る間に耕作が出来ない小作人の仲間を一日も早く自覚させることだ。そして一日も早くこんな馬鹿げたことのない様に仕舞。否今年こそは、收穫の一粒だつてむざ／＼地主に渡さないことにすることだ。

鎮壓出来るか

短月来の地方官會議で、小作率減額案の相談があつた。其の相談の内容は、表面からと、裏面からと二つに分けてやることになつたらしい。表面からの方法としては、今迄も岐阜、埼玉、香川等で施行されてゐた、小作率減額案の特種機会を好都合に全部進行するやら、その他あらゆる手段を以て小作率減額案を徹底的に実施するのだそう。だが、もう一方の裏面では小

作人の反感をそゝるから、それをゴマカス様に裏面から小作人對地主の間に立つて、調

体調整を施すのだそう。地方面でも中央政府でも、地主階級の奴等が、農等かでも、調かするのが少くなれば、やれ農村救済だ、やれ地主相相談とかぬかして、いかにも農村全體でも救ふやうな美名で實は地主擁護を圖るのだが、小作人が食へないから何とか仕様として動けば直ちに、やれ鎮壓だ、調停とかぬかして動きがとれなくするのは、今迄も随分やつて来たことだ。

今更新しく相談もないもんだ

それとも、もつとウイメ鎮壓方法でも案出したのか。勿論そんなことは俺等に話しはしないだらうが、官憲の奴等が此の頃農村でやることで餘にあたることはないでもない。奴等は盛んに殺か／＼とぬかした幾何「小作人組合といふ名で少作人だけが組織的に團結して、あつたのでは地主が承認するものではない。どうしても地主と協調して農村全

體の團圓地を築くが望

じなければ駄目だ。故に各農も農會とか、農産協同會とか否に改めた方がよい」とか言つて改めを強固する。小作人が困るのは地主から小作料と言つて收穫の大半を奪られるからだ。地主といふ奴が此の地上に居る間は、小作人は貧乏するのだ。それがどうして地主と協調出来るか。自覚した小作人は、なんと言つても、地主と戦うのだそれが願ければどうでもするがよいどうぞ官憲なんて地主の味方なだから、小作人の爲になつてもらうなんて考へは少しも持つてゐないんだ。

地主共の腕き

地主階級の奴等は此の頃盛んにもがき運動を始めた。帝國農會とか、農民聯盟とか、農村同志會とかいふ、地主共やその代辦者共の腕力が降りて、政府や政治界共に、

が望をやつてゐる。何んぞ、

奴等は大半さびしくなつた。是見て、政府は地主階級の腕力をやらせようとするのだ。政府は無論、官憲階級に代る政治家共も盛んに地主階級擁護の手腕を、その地主共の腹心を買ふとしてゐる。どうぞ同じ穴の狸だ。どんな八百長をやらうと、小作人の闘はつたことではない。が、そのウウツへさ加減を見る。少しは何か言つて見たくもなる。奴等共は決してヘツキリと地主を救済して呉れないのだ。口を開けば眞く農村救済と言ふのだ。農村の大多数は、(前説でも言つた様に)働いたものを積りりするものさへなくればよいのだ。だが、それでは地主が助からないから地主がもがき運動を始めたのだ。故に奴等の農村救済運動とは眞赤な偽りで、實は奴等地主階級の運動だ。